

＜コープサウス2022＞米軍とバングラデシュ空軍 軍事専門家会議 *U.S., Bangladesh air forces exchange best practices during Exercise Cope South 2022*

March 1, 2022

By Tech. Sgt. Christopher Hubenthal
374th Airlift Wing Public Affairs

【バングラデシュ】バンガバンドウ・バングラデシュ空軍基地発— 2月19日、米軍第36遠征空輸中隊の空兵とバングラデシュ空軍 (BAF) の隊員は、演習「コープサウス2022」の一環で、軍事専門家 (SME) 会議を開き、戦術空輸に関する知識を共有した。

両軍の乗員、整備士、作戦支援専門官は、この会議を通じて演習の任務遂行能力を高め、相互運用性を高めるための知識を分かち合った。

第36遠征空輸中隊C-130JスーパーハーキュリーズのパイロットTJヨンカンスケ中尉は、SME会議は、演習する上で欠かせないもので、チームとして作戦する際の両空軍のパフォーマンスを向上させるものだと言った。

ヨンカンスケ中尉は、「(共同演習では) バングラデシュ空軍の空挺部隊の一部の隊員と物資投下作戦や空挺作戦を行う。そして、数人の(バングラデシュ空軍の) 隊員にもコックピットに同席してもらい、我々が戦術運用を行う様子を多少見てもらう。こうして共に仕事することで築いた信頼関係があれば、彼らが我々の輸送機に搭乗する際に、状況をよりよくイメージできる」と述べた。

両軍の乗員は、C-130の輸送機の性能や、低空飛行技術、乗員飛行装備品用語、乗員の資源管理について理解を深め、会議終了時には、この演習で計画されている訓練飛行に備え、より多くの知識を得ることができた。

第36遠征空輸中隊ロードマスターのトイアナ・キャンベル軍曹は、「この会議は、基準を定めるのに有効だ」と述べ、「彼らは我々が言うことをすべて真摯に受け止めてくれている。彼らと我々の実践の仕方の違いを学ぶことができる。どちらかが間違っているというのではなく、方法の違いというだけだ。彼らの能力を吸収することはとても有益であり、物事を違った角度から見るようになる」と続けた。

太平洋空軍の5つの基地から米軍空兵70人以上と米宇宙軍の隊員1人が参加し、バングラデシュ空軍の約300人の隊員と共に、パートナーシップ能力向上のために、任務遂行、習熟度評価、今後の訓練の必要性を確認することを目的とした訓練を行った。

共同演習「コープサウス」は、年2回行われる太平洋空軍が主催する二国間戦術空輸演習で、米国空軍とバングラデシュ空軍がパートナーシップを強化し、実際の有事に対応する際の連携能力を向上させることを目的としている。

